

# 茨城の教育

## 県立高校入試「採点誤り」に関する運動と経過報告

県民会議事務局長 井樋守正

### 前代未聞の大量処分

県立高校と附属中学校および中等教育学校の過去2ヶ年の入試において、78校988件の採点誤りが見つかり、本来合格とすべき4名の受検者が不合格となっていた問題、および「採点誤り・解答用紙等誤廃棄懲戒処分等対象者」として1159名という全国的にも例のない前代未聞の大量「処分」（実際に採点に当たった教諭の中で戒告は9名、文書訓告945名の計954名が「処分」された）問題についての県民会議の取り組みの報告です。

9月29日、民主教育をすすめる県民会議は県教委あてに、「学力検査における採点誤りなどがあつたとしても教職員の『処分』はおこなわないこと」の一点で要求書を提出しました。

翌30日の茨城新聞にもこのことは記事として取り上げられました。

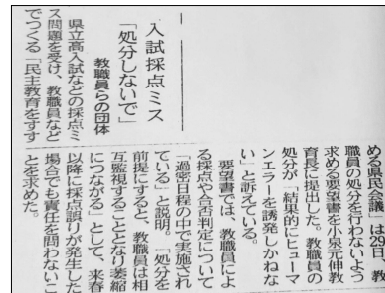
11月9日にこの要求にもとづいて県民会議は県教委と交渉・懇

談（7人参加）を行いました。

### 要求書に基づく県教委交渉

高校教育課の回答は、「仮定の話には、答えられない」というものでした。また、採点誤りの原因をどのように考えているのかという質問には「いろいろあつた」という回答で、原因を特定するような回答にはなりません。参加者からは、採点誤りの原因は入試問題に長文の記述式の回答を求める問題が非常に多くなって、採点時間が長時間になったことが最大の原因だという指摘がありました。

県教委の調査でも、採点誤りのあつた学校では、採点業務が



茨城県高等学校教職員組合  
水戸市平須町1番93  
Tel 029-305-3075  
e-mail iba-kou@ihfsu.net  
HP https://ihfsu.net/

夜の10時、11時までかかったことが明らかにされました。

また、記述式の問題は社会57点分、英語34点分、国語22点分、理科15点分、数学6点分と教科によってばらつきがあつて、できあがつた問題を県教委が再点検せずに入試を実施したことが明らかです。

県教委の調査でも、記述式の問題の比率が高かつた社会科で一番採点誤りがあつたことが明らかになっています。懇談の中で、2019年の中高一貫校増設の中で入試業務が、高校教育改革推進室から指導グループに委譲されたことも県教委から報告されました。

### 採点誤りをなくすためには

2022年度入試の採点誤りをなくすためには、学校任せでは、昨年度と変わらず10時11時までかかっても終わるまでやることになります。また、採点時間を長時間にしないために一番必要なことは記述式の問題をなくす、減らすなどして採点に時間がかからないようにする必要があります。60点近くが記述式だと、5教科以外の教員が記述式問題を

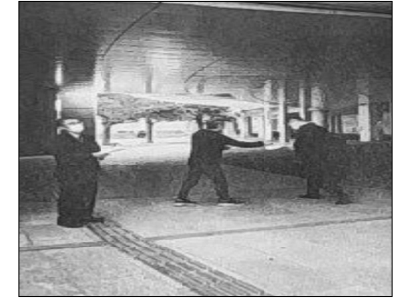
採点することになってしまいました。入試問題の改善は、受験する中学生にとっても採点誤りを引き起こさないためにも実施しなければならないことです。

県教委によれば、処分の理由については「採点誤りが社会的に与えた影響も大きく、県民に対する信用失墜行為だったから処分をした」というものでした。入試問題に事前に意見も言えず、長時間かかって採点業務を行い、生徒のためと考えて部分点を上げて点数を上げていた現場の教員が戒告や文書訓告の処分を受けたことは全く納得いかないことを主張しました。

実際に入試問題をつくった担当者、入試問題を点検し入試業務のマニュアルを作った担当者など高校教育課指導グループの職員は全く処分の対象になっていません。県教委は教育庁や教育部長、課長などを処分したのでそれでよいのではないかと主張するなら、学校も校長だけを処分して一般の入試誤りに関わった教員を処分する必要はなかったはずす。

### 県庁前でチラシ配布

この交渉結果については、11月12日早朝、県庁前でチラシ配布を行い、「入試採点誤り」問題は、現場教職員の怠慢によるものではなく、問題作成を行っ



た県教委そのものにあることを訴えました。

### NHK水戸放送局「いば6」で放映

チラシ配布後、NHK水戸放送局の佐藤志穂記者から取材の申し込みがありました。

その結果は、12月23日、「いば6」において「採点ミスどう変わる」（約10分）にまとめられ放映されました。

採点に携わつた現場の教員の声も具体的に取材され、好意的な番組となりました。以下、その内容をまとめました。

- ◇採点ミスの内容
  - 「正解を不正解としたなど（226件）」
  - 「配点や部分点を誤つた（119件）」
  - 「計算ミス（83件）」
- ◇採点ミスに関する現場からの声
  - 「採点が長時間に及んだことによる疲労」
  - 「記述式問題の増加・採点基準

の作成が難しい」  
「解答用紙に採点を記入する欄がなく余白に記入した点数が見づらい」

◇新しい解答用紙の見本＝「採点 得点 点検 照合 確認 確認」欄を作成

◎新しい採点方法に関する現場からの声

「採点手順が複雑になり、かえってミスが起きるのでは」

「手順が増えて時間が足りない」  
「現場の教員の負担は改善されず、教育委員会への不信が募るなど」

◎放送大学 田中統治特任教授のコメント

ミスが全くなくなるかどうかは分からないが、少なくとも可能な限り対策が講じられていると思う。懸念されることは、

(対策を)作り再びミスが起こった時、それを伏せることがないかという点。採点ミスの事例を公開し、その原因を探りながら改善をはかっていくことが大事。シミュレーションではうまくいっても、実際にやってみると思わぬ問題が出てくるというのがヒューマンエラーの常。新しいシステムやマニュアルも絶えず改善を重ねていくことが大事。

◎坂東市で学習塾を運営する倉持裕一さんのコメント

非常に記述量が多い。文章で

答える問題が多い。あの日程では相当無理がある。採点時間として、現場の先生方に無理があるのでは。(来年受験することしの3年生は「実験台」。来年3月にふたを開けて入試が実施されれば方向がある程度わかる。問題の形式は一切明らかにされていないので、引き続きこの形式でいくのか。以前の客観的な問題に戻るのか。心配はある。ものすごく強い。

◎高橋アナウンサーのコメント  
今年の実験台というわけにはいかないですよ

◎佐藤記者のコメント  
明日(24日)採点手順を一部の中高一貫校でシミュレーションを実施する。一度定めたシミュレーションだからといって、ためらわず、明日のシミュレーションで改善点が見つかったら、ためらわずやってほしい。

再発防止策については、県教委は11月にお知らせを出した。受験生が安心して、対策をとり、入試にのぞめるよう、どのように変えていくのか、外からでも見えるようにしてほしい。

◎佐藤志穂記者の指摘  
佐藤記者は、記述問題の採点



のむずかしさ、複雑になった採点手順、土曜日でも採点日としたこと、また「不合格になった受験生に、答案用紙を返却することは必要なか」と取材中(12月14日)感想をもらっています。

とくに、不合格者に答案用紙を返却することについては、不合格になった生徒全員に「返却・郵送する必要はあるのか」「2度、不合格という事実を突きつけるのはいかがなものか」「保護者も、同様に2度、不合格という知らせと理由を告知される」「不合格者は、学校に点数を開示請求できる。必要がある生徒が、請求すればいいのではないか」などとも。

県教委が返却・郵送するならば、低学力の問題を社会問題化するチャンスとして捉えられると考えることもできそうです。また、受験生が「実験台」にされる、という学習塾の方の指摘は、考えさせられるものがあります。

### 「県立高校希望者全入」の検討を

茨城県教育委員会は、昨年度の高校入試採点誤りを受けて、答案のレイアウトは若干改善したものの、原版と印刷したものを採点する二系統採点方式、土日も連続で採点するスケジュールを組むなど、ますます負担が

増えるような方策をとろうとしています。

しかし、全日制・定時制とも志願倍率は1倍を切っています。「採点誤り」の最善の解決策は県立高校入試を廃止することです。「受験競争」を改め、県立高校希望者全入を検討することが大人の責任です。25人程度の少人数学級も求められています。

### 県教委に要求書提出

茨高教組は2021年12月27日に県教委に対して入試採点業務等に関する要求書を提出しました。要求書は以下の通りです。

### 入試採点業務に関する要求書

新たな採点方法の導入が示され、さらに変形労働時間制の運用で休日に採点業務等を命じる取扱要項が策定されました。記述式問題の出題数がどうなるか分からないなか、採点業務に係る時間が増大しこれまで以上に負担が増え、かえって採点誤りが起こるのではないかと、各職場から不満の声があがっています。

採点誤り再発防止の観点から、以下の事項を要求します。すみやかに回答願います。

1. 「県立学校における入学者選抜及び入学者選考業務に係る教職員の勤務時間の取扱要項」の法令根拠を示すこと。

2. 受験生や採点者の負担軽減の観点から、部分点や複数解が生じる記述式(長文)問題については出題数を必要最小限にとどめるなど見直しをはかること。
3. 作業効率の向上をはかるために受験生の解答用紙と標準解答のレイアウトを揃えること。
4. 記述式問題については、すべての学校に対応できる採点基準を作成すること。
5. 大問の中に記号問題と記述式問題とを混在させないこと。
6. 記号問題は「選択肢を○で囲む」方式にすること。
7. 採点シミュレーションで明らかになった問題点について各学校からききとること。

要求書に基づいて、県教委との交渉が2月3日(木)13:00~14:30に行われます。

職場からの多くの参加を要請します。

### 学習会案内

茨高教組は「茨城の高校入試を考える学習会」を、1月29日(土)13:30~16:00、オンラインで行う予定です。どなたでも参加できます。下記QRコード又は茨高教組HP(<https://ihfsu.net>)からお申し込み下さい。

1月28日まで受け付けます。

